



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2025.3.13 No. 093

はやぶさ・こまち21号の列車分離事故から

8日後に連結運転再開を発表！



本当に安全は守られるのか？

3月11日、JR東日本は3月6日に発生した上野～大宮間、「はやぶさ・こまち21号」の列車分離事故の事故調査経過報告と今後の列車運用について記者会見を行った。JR東日本は今回の事故はこまち側の「電磁弁」の電気信号の異常で、連結器が外れた可能性があることを記者会見で明らかにした。当面の対策として、電磁弁が誤作動しても連結器が外れないよう金具で固定し、連結運転を14日から順次再開すると発表した。この事故の影響で利用者に多大なるご迷惑をかけている。特に新幹線停車駅のみどりの窓口は通常の利用者に加え、今回の事故によるきっぷの変更、払い戻しの対応で大混雑を招いている。しかし、社長以下6名の代表及び常務取締役は現場で苦勞する社員に対して労いの言葉もないどころか記者会見にも一切出て来ない有様である。このような安全軽視、責任転嫁の経営体質では鉄道の安全を任せることはできない。今こそ現場で働く社員一人ひとりが声を出して訴えるべきである。会社の言葉を借りるのならば今のJR東日本こそ変革すべきである！それでもう一度、鉄道の安全神話を再構築すべきだ！



事故発生直後の東京駅の改札内の様子



新幹線の列車分離事故以降、
仙台駅では毎日100組を超える順番待ち